

宮古剣道協会のあゆみ

宮古剣道協会の前身は、宮古剣友会と称し戦前より活動し、その稽古の場は築地にあった旧宮古警察署の武徳殿で、宮古警察署の剣道師範をしておりました平野梅吉氏（大日本武徳会・武道専門学校の前身の武術教員養成所卒。内藤高治先生に師事し後に範士）を中心に行われていました。（武徳殿は、剣友会有志で建設し岩手県に寄付し宮古警察署で管理していたと言われています。）

終戦により、剣道はしばらくの間禁止されましたが、宮古剣友会は、昭和28年に剣道が解禁されるや、会長に平野梅吉氏を擁し、いち早く再開しました。

剣道復活直後は、戦後の混乱期の青少年の健全育成に剣道が重要視され、民警一体となって武徳殿において100名以上の青少年が入会し、「若竹会」と称し稽古を続けておりました。

宮古剣友会は、菊池健治氏（八戸中学校―旧制仙台第二高等学校―東北大学医学部―菊池産婦人科院長―剣道教士六段）が昭和38年に会長に就任された時、宮古市の剣道だけでなく、広く下閉伊地方の剣道を発展させるための協会にしたいと提案があり、宮古剣友会から宮古市でなく「宮古剣道協会」と改めました。

昭和40年宮古警察署が改築されるため武徳殿が解体されることになり、その払い下げを市教育委員会と共に陳情した結果、中央公民館坂上に「錬成館」が建築されましたが、山の上で交通の便が悪いため十分な稽古ができない状態でした。

そこで、菊池会長から自分たちの道場を作ろうという提案があり、場所について検討したがなかなか見つからず、駒井啓三元会長の父才吉氏に相談したところ駒井家敷地の一角を借用させていただくこととなりました。

会員諸氏の浄財と旧新里村村長関沢富司氏のご理解により解体される茂市中学校の廃材を譲渡していただき、道場が昭和42年に完成しました。

道場名については、菊池健治会長より出身の東北大学の「尚志会」をそのまま使用したい旨の申し出があり、会員も賛同し、道場名を『尚志館』と決定しました。

尚志館道場は、沿岸剣道の中心として剣道愛好家がいつでも利用できる場だけでなく、宮古第一中学校剣道部の練習場としても利用され始めました。また青少年の健全育成を目的に「尚志館剣道少年団」も結成され、その後、鉾ヶ崎地区・千徳地区・磯鶏地区・新里地区・川井地区に雄々しく少年団が誕生し、各地区の名称がつけられ盛んになり、近年少子化とともにその団数は少なくなりましたが先人の先生方が念願とされていた剣道の隆盛は今なお続いております。



尚志館道場

剣道協会の事業としては、昭和36年から宮古市及び周辺市町村の剣道振興を図るため春と秋に開催されていた「宮古下閉伊剣道大会」を前身とする北鷗旗争奪剣道大会（高校・一般）、黒潮少年剣道錬成大会（小・中学生）を春に、三陸沿岸剣道選手権大会（高校・一般）、（小・中学生）を秋にと4つの大会を県内各地から多くの参加を仰ぎ盛大に開催させていただいております。



大会風景

さらに、駒井啓三先生と神奈川県西村普先生（範士八段・神奈川県警師範＝当時）が戦友であったご縁で、昭和61年から西村先生においでいただき、協会員や少年団の技術の向上を図るため講習会を開催しています。

現在は、小林英雄先生（範士八段・神奈川県剣道連盟会長）及び全日本剣道選手権優勝者の宮崎正裕先生、宮崎史裕先生のご指導をいただき引き続き講習会を実施しております。



剣道講習会風景

岩手県内での大会におきましては、県民体育大会で男子が昭和39年、平成元年、2年、9年、25年と5回そして女子が昭和59年、60年、61年、62年、平成元年と5回優勝しております。

県下選手権大会におきましては、男子が平成12年に、女子が昭和48年、57年、60年、61年、63年と優勝し、宮古の意気を県下に示しております。



平成25年度県民大会優勝

最後になりますが、多くの方々のご協力とご努力により誕生し、協会員のみならず多くの剣士の修行の場として歴史を重ねてまいりました尚志館道場は、平成27年3月をもって、惜しまれつつも48年間の歴史の幕を閉じることとなりました。

新年度から宮古剣道協会の主な練習場を新たに宮古市民総合体育館として、宮古地域の剣道普及と剣道を通じた青少年の健全育成に、今後とも邁進して参ります。